

第 42 回 福島支部評議会の概要報告

1. 開催日時

平成 27 年 12 月 14 日（月） 15:00～17:00

2. 開催場所

ユニックスビル 8階 第1会議室

3. 出席者

【評議員】 五十畑評議員、太田評議員、吉川評議員、
中尾評議員、藤原評議員（議長）、渡邊武評議員
渡邊泰夫評議員（五十音順）

4. 議題

- (1) 平成 27 年度上期福島支部事業報告について
- (2) 平成 28 年度福島支部事業計画（骨子案）について
- (3) 平成 28 年度保険料率について

5. 議事概要

【定足数について】

事務局より、本評議会には評議員 9 名中 7 名（第 2 条第 2 項に掲げる評議員の各 3 分の 1 以上）が出席しており、全国健康保険協会評議会規定第 6 条により、「本評議会は有効に成立する」旨の報告があった。

【議題について】

事務局より資料に基づき説明が行われ、議長が各評議員・加入者代表に質問・意見を求めたところ、以下の議事のとおりとなった。

(1) 平成 27 年度上期福島支部事業報告について

評 議 員 ジェネリック医薬品使用割合は都道府県によって差があるが、原因を把握しているのか。

事 務 局 ジェネリック医薬品使用割合の都道府県格差については、十分な分析はできていない。今後、ジェネリック医薬品の更なる使用促進を図るために、都道府県格差の要因について検証していきたい。なお、今年度、地域の薬剤師ミーティングを開催し、ジェネリック医薬品の使用促進について協議していく予定である。

議 長 データヘルス計画では高血圧対策のため各種事業を展開しているが、「減塩」の取組みも有効と思われる。

事 務 局 「減塩」の取組みを含め、高血圧対策は福島支部にとって重要な課題と認識している。福島県や他の保険者とも連携し取り組んでいきたい。

(2) 平成 28 年度福島支部事業計画（骨子案）について

評 議 員 各支部の広報に係る予算額はどのように決定されるのか。

事 務 局 全国共通の金額に、支部ごとの事業所数・被保険者数を踏まえて案分した金額を加えて決定される。年度によって若干の増減はあるが、基本的にはおおむね同水準で措置されている。

評 議 員 事業計画の「保険運営の企画」で、「主要政党県連、県内選出国會議員、都道府県など関係機関への積極的な発言」が削除されているが、今後も積極的な発言を行っていくべきではないか。

評 議 員 財政基盤強化のための取組みは継続して行うことが重要である。福島県は震災や原発による医療費の免除などの特殊な事情もあるので、国会議員等への働きかけは必然であり、「主要政党県連、県内選出国會議員、都道府県など関係機関への積極的な発言」の項目は削除するべきではない。
国庫補助金は当分の間 16.4%となったが、現状維持を目的とすべ

きではない。保険料負担を減らすために、国庫補助率引上げに向けた積極的な発言を続けなければならない。

事務局 平成 28 年度は財政基盤強化のための全国的な行動は予定されていないが、支部においては継続した取組みが必要とのご意見をいただいたので、内容については改めて検討させていただきたい。

(3) 平成 28 年度保険料率について

議長 保険料率は今後どのように決まっていくのか。

事務局 11 月 25 日と 12 月 9 日の運営委員会で保険料率について議論された。12 月 25 日に開催予定の第 72 回運営委員会で全国平均保険料率についての最終意見をいただき、それを踏まえて、本部から各支部の保険料率（案）が示されるものと考えている。平成 28 年 1 月に開催する評議会では、福島支部の保険料率について評議員の皆様からご意見をいただくこととしている。

評議員 平成 28 年度の保険料率に係る運営委員会の資料で、沖縄の評議会の意見に、「協会けんぽの保険料率は大手健康保険組合に比べて、まだまだ格差（割高感）がある。」というものがあるが、具体的にどういったことか。

事務局 協会けんぽと健康保険組合、共済組合の保険料率を比べると、協会けんぽの保険料率が他の保険者と比べて高い水準にある。協会けんぽの平均標準報酬月額が健康保険組合などに比べて低いため、保険料率は比較的高い水準になっていると思われる。

評議員 健康保険料率の制度間格差を解消するためにも、制度の一元化を目指すべきではないか。

評議員 福島県は震災や原発による医療費の免除などの特殊な事情もあるので、国会議員等への働きかけなどを積極的に行い、加入者の負担を少しでも減らすよう努めていただきたい。

- ・傍聴者 1名（福島民友社）
- ・次回評議会 1月13日開催予定

以上